

二二三九番

秋山あきやまの したひが下したに 鳴なく鳥とりの 声こゑだに聞きかば
何なにか嘆なげかむ

二二四〇番

誰たそ彼かれと 我われをな問とひそ 九月ながつきの 露つゆに濡ぬれつつ
君きみ待まつ我われを

二二四一番

秋あきの夜よの 霧きりた立ち渡わたり おほほしく 夢いめにそ見みつ
る 妹いもが姿すがたを

二二四二番

秋あきの野のの 尾花をばなが末うれの 生おひなびき 心こころは妹いもに
寄よりにけるかも